

行仙宿巡回整備と上平一郎氏宅訪問

◇実施日 6月17日(土) 晴

◇参加者 沖崎吉信、梶野照雄、湯川一郎、坂野良 4名

6月は予定した行事は無かったが、梶野君から2、3こなしておきたいことがあるので行仙宿に行くことと連絡があった。また3日ほど前に坂野君からも、行仙宿に行くので荷揚げする物があれば持つて行くと申し出があった。湯川君もお姉さんが来て母の面倒を見てくれるので一日自由な時間が出来る、何か予定があれば手伝う。との話が重なり4人で行仙宿に行くことになった。



コンクリート板

行仙宿に到着

当日午前9時30分登山口に着く。湯川君宅にまだあったコンク

リート板2枚と半割丸太10本をモノレールに積込む。

半割丸太はモノレール延伸後の補給路付け替え用の資材だ。

モノレール終点に半割丸太をデポし、コンクリート板一枚を沖崎、坂野が持つて小屋を目指す。途中数回休みながら鉄塔下までやってきた。

梶野君が先週直径25cm位の枯れ木を切除した横に新しく登山道を整備したい、と説明を受ける。

コンクリート板の運搬は途中で梶野、湯川の2名と交代、中の砦から再び沖崎、坂野が受け持つてようやく小屋に着いた。



ベンチの改良

レンガに緩衝材を

梶野君は到着後すぐにベンチの交換作業を行う。不安定だったベンチを取り除き、アルミの足を付けた幅広の物に交換した。

ベンチの交換終了後に小屋内のストープ周りのレンガ(かつては囲炉裏の縁石だった)の角に緩衝材を取り付ける。レンガにスポンジをつけるので、接着剤はこれでいいのか?と言いながらの作業だつ

だが、明るいオレンジ色の緩衝材が良く目立っているので、過度に足をぶつける人も少なくなるだろう。
梶野君が作業している間、他の3名で小屋内外の整理、整備を行い12時前になったので昼食とする。



継の窟



改修した補給路

梶野君は午後から継の窟の下降口に標識を設置しに行くという。
坂野君は継の窟に行ったことがなく、是非行きたいと言うので梶野、坂野の2名が継の窟へ行くことになった。沖崎、湯川の2名が前述の登山道新設を請け負った。

昼食後それぞれが小屋を出発、登山道工事は道具や資材の調達、運搬も段取りよく済ませておいたし、新しい道に敷く小石も近くにあり、1時間位で5段の階段を含めた新道が出来上がった。

継の窟班は奥駆道の下降口に標識を立て、継の窟で勤行して小屋に戻り、戸締りして登山道工事現場に降りてきた。

「イメージ通りに出来てる」とお褒めの言葉を頂いた。

登山口に下山後4人で白谷トンネル東口の行仙岳登山口に向かい、故山川さん宅から寄贈された杖20本を、児嶋さんが作った屋根付きの杖立に入れて階段横に設置した。



本日の参加者

行仙岳登山口に杖

上平氏宅で

行仙岳登山口で解散し、沖崎、湯川の2名で浦向の上平氏宅へ向かう。山林所有者の上平氏にモノレール延伸計画の現状と経過の説明を行い帰宅した。

(記：沖崎)

行動タイム

09:30 補給路登山口→11:02 行仙宿 12:25→13:00 継の窟→13:25 行仙宿→14:00 登山道新設現場→13:35 補給路登山口→14:50 行仙岳登山口